

Influence of topical application of capsaicin, menthol and local anesthetics on intraoral somatosensory sensitivity in healthy subjects - temporal and spatial aspects

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長縄, 拓哉 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31339

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2873 号	氏 名	長 縄 拓 哉
審 査 委 員 会	主 査 教 授	吉 原 俊 雄	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>口腔内の感覚検査は口腔の疼痛発生機序の解明に重要であるが、これまで有効かつ使用可能な検査機器は少なく、口腔内疼痛の研究の障害となっていた。本研究は歯科用印象剤を用いて効果的に刺激を与えることの出来る口腔内テンプレートの開発と、口腔用感覚検査機(圧痛計と温度感覚検査機)の開発作製を行ったものである。感覚刺激としてカプサイシン、メンソール、コントロールとして表面麻酔を用い感覚の変化を比較検討した。痛み刺激の強度は VAS にて、刺激により受容した感覚強度を numerical rating scale (NRS) にて記録した。健康被験者 16 人に対して感覚刺激を行い、表面麻酔部位では NRS の有意な低下を認め、口腔内テンプレートの精度が高いことが証明され、刺激のうちカプサイシンの局所投与は熱刺激に対する感覚を primary 及び secondary zone で上昇させる(heat hyperalgesia)ことが判明した。本研究の結果から、開発した口腔内テンプレート及び口腔用感覚検査機が有用な機器となる可能性が示された。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			